



親と子の私立中学受験講座第II部開催

7月23日(土)に「親と子の私立中学受験講座第II部」が開かれ、2011年度の私立中学入試問題の分析結果が発表されました。発表は、国語・算数・社会・理科の順番で行われました。各教科の主な内容は以下のようになります。

国語

今年度は浅野中学の入試問題を取り上げてみました。浅野では毎年記述の問題が出題されています。国語での得点を伸ばすためには配点の高い記述式問題でいかに得点を稼ぐかになってきます。

客観的に文章を捉えることを前提として、自分の考えを文章とすること、この傾向は今後の受験においては避けられないこととなってきそうです。それにむけて今必要とされることは、自分の考えを文にまとめるという、いわゆる作文の練習であると思われます。こういったものなしに、本番の試験で良い文章が書けるということは困難であると考えられます。普段から意識的に自分の考えを文章として書くということが最善の方法であると思われます。また、既存の文章をまとめるという作業も読解力を養う大きな助けとなります。(吉川)

算数

最近の算数入試問題は、基本・標準問題を中心とする「基本重視型入試」の傾向が強まっています。単元別では、規則性の問題、数の発展問題、図形の移動による求積問題などが多く出題されました。立体の切断の問題が例年より多く出題されたことは注目点です。女子校を中心に求め方や途中式など、問題を解く過程を書かせる学校が目立ちます。「計算式をしっかりと書く」、「線分図や面積図を書いて考える」など、日頃の問題に取り組む姿勢が問われているように感じます。特殊算では、10校以上の学校でつるかめ算が出題されました。(二宮)

社会

どの中学においても、傾向が大きく変わった学校はありませんでした。毎年同じようなパターンで出題されていますので、志望校の過去問題を解き、各中学の出題傾向をつかむことが大切です。その中で、少し気がついたことは、地理、歴史、政治の分野が、はっきりと分けられなくなってきたことで、総合問題の色彩が強くなってきたことです。さらに、地理においては一つのテーマのもとで日本全体が、歴史においては一つのテーマのもとで全時代が出題される傾向になってきました。

来春入試の最大のテーマは、何と言っても震災と原発になるでしょう。地理では東北地方に、歴史では平泉の世界遺産登録とリンクさせて、やはり東北地方に関する出題が考えられます。(舟本)

理科

数年来「難易度の二極化」という傾向が顕著でしたが、今年はその傾向が多少弱まったように感じました。つまり、難易度の高かった出題をしていた学校はやや平易化し、易しい問題と思われていた学校では問題の難化があったように感じました。平易化を後押ししたのは、特に中堅校で見られた中学側にとっての厳しい応募状況にあったように思えます。また、難化を後押ししたのは2012年度から完全実施となる新学習指導要領の「脱ゆとり」というコンセプトにあったことは想像に難くありません。

一方、難関校・上位校を中心に、文章の記述やグラフ・資料の読み取りといった出題が増加しつつあることも見逃せません。単なる知識だけでは得点力には結びつきにくくなっており、与えられた資料や実験データをしっかりと読み取り、そこから得られる考察や自分の考えを書く力、そうした力を伸ばすための訓練が必要とされています。開校3年目を迎えた公立中高一貫校の適性検査を思わせるような出題も見られました。(榎原)

入試演習講座

公立校受験講座

六年受験記述対策講座

理社の補習、拡大

火・木の質問室の時間延長

のびる

七月二十三日(土)に、毎年恒例の「親と子の私立中学受験講座第II部」が開催されました。この講座をもつて前期の教室行事はすべて終了したことになりますが、振り返ってみますと、震災や計画停電による授業時間の変更など、今年はずいぶん乱に富んだ幕開けでした。▼講座では、近隣の中学の入試問題の分析結果が発表されましたが、それぞれの中学の個性にあふれる問題には圧倒される思いがしました。形式は毎年ほとんど変わりませんが、何と言いましても、中身に工夫が見られます。では、どんな点に工夫があるのでしょか。それは、問題の中にいかに自分の学校の特色を盛り込むことができるかという点にあります。まさに個性的な入試問題です。▼個性とか、個人的という言葉は、今ではあまりよい意味では使われません。強烈な自己主張や自我は、今ではむしろ迷惑がられ、他人に自分の世界を押しつけることよりも、あるがままで個性的であることが望まれています。ですから、個性的に生きることは、他人を押しつけたり、流行を追い求めたり、かっこよく生きることではなく、より内面的に深みのある生き方をする。ことだと言われています。▼入試問題も同じです。奇を衒うような、競って独自性を誇示するような問題は嫌われます。それよりも、内容のある意味深い問題が好まれます。受験生の学力の向上に役立ち、その到達度をしっかりと見定めることができるような問題が好まれます。そういった意味で、今年の入試問題は、自分の学校の教育方針に沿って、深く深く掘り下げられた良問ばかりでした。受験生には分らないと思いますが、このように問題に挑むことができるということは、とても幸せなことだと思います。そんなつもりで過去問に触れることができたなら、もっと勉強に精が出るかもしれません。頑張ってください。▼ところで、教室では、今まさに夏休み講習会の真っ最中です。学年にもよりますが、講習会に入りますと、なぜか入試を強く意識するようになります。扱っている内容が入試に直結したもので、扱っている内容が入試に直結したもので、ここから入試まで一息だと感じているからなのでしょう。もちろん答は後者です。夏が過ぎると、あつという間に秋が来て、あれよあれよという間に入試の時期を迎えます。▼今年はまだ昨年ほどの猛暑には見舞われてはいませんが、そのうち暑い暑い夏がやってきて、寝苦しい日が続くのもかもしれません。でも、それでも頑張らなければならぬのが受験生です。夏の力は、来春の入試に直結します。みんなと同じことをするのが受験勉強ではありません。より個性的に、自分の内面に向かって努力するのが勉強です。(明智)

